

umibe no mori

2026年7・8月号 VOL.157

デイケアの団扇と扇子

医療法人精華園 情報誌

海^も辺^りの杜

ご自由にお持ち帰りください。



特定技能外国人を迎え入れました

～ 準備から受け入れまで ～

看護部長 徳弘 英史

看護部では、これまでも看護職員の安定的な人員の確保に向けて様々な取り組みを行ってきました。しかし労働人口減少の波は当院にも影響し、人員確保が困難な状況が続いていました。

そんな時、外国人労働者を積極的に受け入れている他施設の取り組みを知り「百聞は一見にしかず」という事でさっそく見学させていただきました。

その施設では労働力としての貢献だけではなく、外国人労働者たちの仕事に向き合う真摯な姿勢が職員や患者さんたちにもとてもいい影響を与えているという話を伺いました。

そこでメリット、デメリットを明示し基幹会議での検討の結果、当院では5年間の滞在が可能な特定技能外国人3名を受け入れることが決定しました。具体的な検討をするために、2025年8月には多職種による「特定技能外国人受け入れワーキンググループ」を立ち上げました。

受け入れにあたり、最も大切な事として皆で共有したのは「単なる労働力として受け入れるのではなく、**互いに尊重しあい学び合う仲間を迎える**」というコンセプトでした。

そのコンセプトをもとにまずはマニュアル類を整備し、ルビ振りや教育ツール、オリエンテーションなど研修計画を立てました。職員の名札をひらがなの大きな表示に変更し、ユーザーさんのベッドネームの表示についても検討をしました。配属予定の病棟では教育担当やプリセプターを複数名決めるなどの準備も進めました。

また、宿舎には家具や電化製品を準備し、宿舎の使い方やゴミ出しのルールなどをわかりやすく明文化し表示するなど、少しでも早く日本の生活に馴染めるよう準備を整えました。

2025年10月にはバリ島の日本語学校で学ぶ学生さんとオンライン面接を行い、モニカさん、ナズワさん、ロディヤーさんの3名の受け入れが決まりました。

受け入れ直前のオンライン面接では、食べ物の好き嫌いやアレルギーの有無、趣味や好きな色、日本で何をしたいか、心配や不安な事など質問し、彼女たちを知ることで少しでも早く日本に馴染めるよう支援したいと考えました。

初めて異国で生活する3人が、何に困りどうすれば安心して生活できるのか。想像力をフル稼働させてできる限りの準備を進め、いよいよ入国日である2026年7月1日を迎えました。

星空の百年航海★1

元新聞記者
医療法人精華園百年史編集委員長
依光 隆明

仁淀人脈が五十年史を生んだ



7月19日、朝日新聞に吉田類さんが大きく出ていた。テレビ番組「酒場放浪記」で超のつく人気者になったあの吉田類だ。といっても酒場巡りが類さんの本職ではなく、あえていえば本職は絵画で趣味は登山。その原型を作ったのは生まれ育った高知県仁淀村だった。などと思いながらふっと仁淀村に心が飛んだ。高知新聞時代、最も印象に残る取材は仁淀村が起点だった。1995（平成7）年3月に連載した戦後50年企画「36人の軌跡」。1959（昭和34）年3月に仁淀村別枝中学校を卒業した36人全員を社会部の同期3人で追った。36人の36年間でたどり、一人一人に会った。

かつて仁淀の山々は春になると金色に輝いていた。ミツマタの黄色い花が山を埋めていたからだ。ミツマタは和紙原料として造幣局に納入され、紙幣になった。板垣退助の百円札が百円硬貨に替わったとき、ミツマタは消えた。ひとつの産業が消えたと言っている。36人のうち高校進学者は1人。ほとんどは集団就職で都会に出た。鉄工所、縫製、土建、牛乳配達、飲み屋…。一人一人に会って人生を聞くと、戦後という時代が見える。日本の高度成長は山村の労働力を都市に移転することで実現した、ということがよく分かる。

昭和20年代に別枝中学校長を務めた吉岡重忠さんにも会うことができた。当時、86歳。仁淀に住み、山の教育を支え続けた人格者だ。一昨年、吉岡さんの名を意外なところで見て驚いた。『精華園五十年史』（1979年刊）を書いたのが吉岡さんだった。なぜ吉岡さんが？と思って調べると、事情はこうだ。吉岡さんが勸奨退職で教員を辞した1968（昭和43）年3月、精華園理事長の町田昌直氏から「会いたし」という電報がきた。氏も仁淀の出身で、吉岡さんとは旧知の間柄。翌日吉岡さんは高知に出る。町田氏に会うと、「精華園を手伝ってほしい」。

考えた末に断ったが、再び懇請されて引き受ける。精華園の事務を手伝い、やがて事務長に。傍ら『精華園五十年史』を書きあげた。

吉岡重忠さんは県出版文化賞を二度受賞した文化人だった。町田昌直氏は医師でありながら音楽家でもあり、芸術全般に造詣が深かった。吉田類さんも絵画や俳句の世界で生きている。往時、土佐の山里には文化の土壌があった。おそらくこの院内誌もその延長線上にある。素朴さとまじめさ、吉田類的破天荒さ。活気があって読みごたえがある。

『精華園五十年史』から間もなく50年。時代は変わり、人も変わった。あらゆるものを飲みこみながら、淡々と歴史が刻まれている。





↓ 僕たちにいけてる夏は来るのだろうか。 思い出の橋本治と薬師丸ひろ子

7月の梅雨明けから一気に暑くなり、これから夏本番というところですが、8月に入ってみると、夕暮れが早くなってきたことにふと気づかされます。あれ、この間まで夜の7時でもまだまだ明るかったのになあと。土佐のエネルギーがはじけるよさこい祭りもこれからだと言うのに、わずかな秋の予兆を感じてほんの少し寂しいような物悲しいような感情が湧いてきたりします。

私は小学生の頃から、春先の急にポカポカしてくる頃になると気分が高揚しなるとなく元気が湧いてくる、一方秋になって日が落ちるのが早くなり夜が暗く感じられるようになると、どことなく寂しいような、焦るような、ピュルル〜と秋風が心に吹くような気分になるのです。特に運動会や文化祭などの準備の頃、いつもより遅く帰宅する帰り道などに強く感じたものです。ここに金木犀の香りが加わったりした日には、もうだめですね。ああ、秋が来て冬が迫っている! どうしよう…。と。精神科医になってから、これはごく軽度の季節性感情障害の傾向なのではないかと思っています。

さて、夏の思い出と言うと皆さんはどんなことを思い浮かべますか?。これを読んでくださっている皆さんの中には、いけてる夏の思い出がたくさんある方もいることでしょう。スポーツに打ち込んだとか、彼氏や彼女とデートしたとか、海に行ったとかキャンプに行ったとか。そういう方はうらやましい限りです。私はいけてる夏の思い出がほとんどないですね。宿題とか塾とか、義務的なことはするものの、あとはごろごろとマンガや本を読んで過ごすばかり。

小学生の頃は、毎年夏休みに母が旅行に連れて行ってくれたので、それが夏の一番の楽しみでしたし、図工系や作文や習字などには苦勞させられましたが、親に尻を叩かれたり手伝ってもらったりしながらなんとかこなしていました。しかし中学生にもなると親もそこまで口出ししなくなるので、最後の3日間で泣きそうになりながら数学の問題集を何ページも解いたり、今に至るまで健在な先送り癖が現れてきて、これも夏の終わりに寂しくなる一因かもしれません。

そう言えば、7月末ごろに柳原の鏡川沿いの緑地で開かれる鏡川まつりっていうのもありましたよね。調べてみると1971~2005年まで35回開催されていました。小学生の時には、ブルース・リーブームに影響されておもちゃのヌンチャクを夜店で買って喜んでいたりしたのですが、中学生ぐらいになると女の子を誘って行きたいとか思い始めるものの、当然うまくいかずに男友達とぶらぶらして夜店で何か買い食いして解散…とか。

つまりは毎年のように、夏休みが近づくと今年は何かいいことがないかなと思いつつ、結局は何もなく夏は終わるということに…。そう言えば鏡川まつりに一緒に行った同級生のS君(神戸の三宮で、何千枚もの昔のロックのLPレコードが聞けるマニアックなバーを経営)が音楽好きで、彼に教えてもらった河島英五の歌も聞いたりしていて、中でも「何かいいことないかな」というそのものずばりのタイトルの曲が本当に気分合っていて、とても好きでした。

1979年、無事に土佐高校に入学したのですが、高校から編入で入ると勉強が遅れていて大変なんです。遅れを取り戻すために高校1年生の1学期から夏休みの終わりまでは、我ながらよく勉強したと思うくらいまじめに勉強したものです。この時期と医師国家試験の直前2か月間ぐらいが人生で一番集中的に勉強したような気がします(大学受験前もそこまでではなかった…)。

そんな、いけてない高1の夏休みを一層刺激したものの一つが「時間がないんだ青春は」という1979年夏の角川文庫の宣伝のコピー。そして販促の小冊子の表紙は薬師丸ひろ子(写真1)。薬師丸ひろ子さんについては今更言うまでもない存在ですが、前年の1978年に映画「野生の証明」で高倉健との共演でデビュー。私も映画館で見たのですが、高倉健のかっこよさとともに、薬師丸ひろ子のちょっと下ぶくれのほっぺと目力の強い瞳が魅力的でしたねえ。

写真1

写真2 桃尻娘シリーズ全6冊(いずれも講談社)

「時間がないんだけど、どうしたらいいんだよ!」と心で叫んでいた私を刺激した二つ目が、作家橋本治(1948～2019)のデビュー作「桃尻娘」でした。ふざけたタイトルですが、主人公の榊原玲奈を中心にその友人たちのそれぞれの1人称で書かれた連作集で、当時の高校生らしい口調での会話や独白が多く、それらが疾走するような文体で続いていく。言葉遣いは違うのですが、東京出身の橋本氏ならではの、ある種のべらんめえ口調という感じ。著者はこの時29歳の男性なのに、よくこんなに女子高生の内面がリアルに(と私には感じられた)描けるものだなあと感心したのでした。

例えば、第5章 温州蜜柑姫(おみかんひめ)の冒頭。

『「その夏、私は十七だった」って、フランソワーズ・サガンが威張ってたわ。いいわよネ、フランス人は気楽でサ、
「その夏」で「十七」で「悲しみよ こんにちは」だもんね。あたしだって、この夏チャンと十七だったわ。でも、高等学校三年生だっていう正体のバレてる日本娘が十七だったからって、別に自慢にも何にもなりやしないのよネ、決まってるわ。』とこういう感じなのです。後の「桃尻語訳 枕の草子」に通じるものがありますね。

そしてこのシリーズは主人公たちが浪人生、そして大学生となっていき、また色々な体験をする様子を本当に生き生きと描いています。写真2にあるように1990年までかけて計6冊、私も大学生になり卒業して医師になった頃まで、ずっと追いかけて読み続けたのでした。

中でも、ゲイである木川田君のノン気(異性愛者の意)の先輩に対する切ない恋心には、そのどうにもならない状況に、やる瀬なさを感じるとともに、いかに自分の気持ちがあっても相手の気持ちがこちらに向かないことには全く無意味・無力であるという恋愛の根本的な苦しさをしみじみと痛感させられたのでした。

という訳で、橋本治ファンになった私はその後、90年代に氏が量産した様々な評論集(どれも分厚くて字数がめっちゃう多い)も相当読んで、影響を受けたものです。

橋本治の魅力については、とても語りつくせませんが、とにかく多才な人で、東大の文学部在学中に、駒場祭のポスターのデザインで有名となり、専攻としては歌舞伎の研究をしつつ、プロのイラストレーターとしてレコードジャケットのデザインやポスターなどを手掛け、そして20代の最後に作家としてデビュー。執筆と並行して、自分のイラストをセーターの絵柄として編み込むという、ちょっと考えても片手間に出来るようなことではないものを量産してニットの展覧会も開くほど。天才的表現者としか言いようがないと思います。最後に2024年に横浜で開催された「帰ってきた橋本治展」のパンフレットの一部を写真3としてあげておきます。

今年もいけてない僕らの夏がやって来て、そしていつものように去って行くのでしょうか。

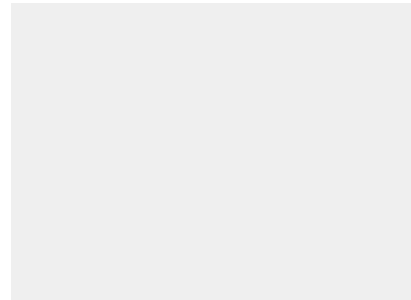


写真3

第51回日本精神科看護学術集会 AIと精神科看護に参加して

1病棟 吉村 有

今回、学術集会に参加する為、静岡県浜松市にに行ってきました。

人生初の新幹線移動に緊張していましたが、病棟スタッフに励まされ、乗り方のレクチャーをうけ、何とか出発。台風や地震の影響を受けながらも無事に帰ってくることが出来ました。

研修の中で、愛着スタイルから考える看護師のメンタルヘルスについての話を聞きました。グループワークの中で、「疲れている時、どんな関わりがあると安心できますか?」「疲れている同僚にかける、明日から使えそうな一言をグループで作しましょう」といった取り組みを行いました。これまで病棟スタッフに声をかけてもらって嬉しかったことや素敵な声掛けが自然と浮かんできました。グループワークで共有した際には、他の参加者の方からお褒めの言葉もいただき、とても誇らしい気持ちになりました。また、病棟で取り組んでいるような内容が、他院の実践例として紹介されているのを見て、「うちの病棟も頑張っているな。」と実感する事ができました。

病棟を離れ、研修を受ける中で新たな知識を得るだけでなく、病棟や病院について改めて考えるきっかけになりました。

追伸: 2泊3日で静岡にいきましたが、1mmも富士山をみることなく、出張が終わりました…



こんなマンホールも見つけました



5・6月は季節行事が盛りだくさん！

精神科デイケア「わくわく」で開催しているプログラムを紹介します

- 行ったのが初めてで、晴れた日にみんなと行けて楽しかったです。(今ちゃん)
- 建物がとても格好良かったです。(やまのぼりん)
- 新しい記憶になって、目の保養になってよかったです。(のぶお)



5月11日に高知城歴史博物館に行き、「さんごをまとう」を鑑賞してきました。高知城歴史博物館に行くときに限ってなのですが、半分は雨のため心配をしていました。しかし、暑いぐらいの快晴で、ホッとしました。サンゴの歴史、昔は石などと考えられていた、舶来品が尊ばれ高知のサンゴは安かったことなども含めて展示してありとても興味深く拝見しました。かんざし、くしなどの展示もあり、特に帯留めはとても細かく感動しました。ちなみにサンゴは動物でクラゲなどの仲間です。宝石サンゴで水深の深いところに住んでいて、サンゴ礁のサンゴとはまた別です。あの赤い色はエビなどと同じカロテノイドのようです。参加者数名の方に感想をうかがいました。

高知城歴史博物館に行こう！

片岡CP

デイケア新聞

vol.118

将棋大会

上甲PSW

5月27日病棟と合同での将棋大会を開催しました。

デイケアからは5名、病棟からは8名の方が選手として出場しました。久しぶりに顔を合わせる方もおり、参加者は緊張の中にも穏やかな雰囲気ではじめました。

デイケアから出場していた明坂さんが決勝まで勝ち進み、準優勝になりました。「1手間違えてしまい、相手のスピードについていけず負けてしまいました。対戦してくれてありがとうございました」と感想を頂きました。出場されていた方は皆さん一手一手真剣に考えて将棋を指していました。

応援にかけつけてくれた方も、真剣に戦っている出場者を最後まで応援してくれていました。出場された方、応援にかけつけてくれた皆さん、おつかれさまでした！

めだかの赤ちゃんがたくさん生まれました！

アクアメンバー

デイケアわくわくで育てているめだかの赤ちゃんがこの春誕生しました。みんな元気に泳いでいます。また新しい生命ができるまで、すくすくと成長してほしいです。



ピア活動

今橋OTR

ピア活動、5月は和田さんの企画で『キーホルダー作り』を行いました。

UVレジンを使ったオリジナル作品づくりで、参加者の皆さんは、好きな色やラメ、チャームなどの材料を自由に組み合わせながら、それぞれ個性が光る作品を制作しました。「どんな作品にしようかな」と考えながら材料を選ぶ時間や、完成した作品を見せ合う場面では自然と笑顔や会話が広がっていました。

始めてUVレジンに挑戦した方も、スタッフや参加者同士で教え合いながら楽しく取り組むことができた！「思ったよりも簡単だった！」「また作ってみたい！」といった感想も聞かれました。作品作りに集中する時間だけでなく、参加者同士の交流を深める機会となりました。😊



ピア活動

今橋OTR

ピア活動、6月は明坂さんの企画で『BBQ』を行いました。

当日は天候にも恵まれ、参加者の皆さんと協力しながら食材の準備・調理を行いました。

焼き方はそれぞれで、自分でお肉を焼いて楽しむ方もいれば、スタッフが焼いたものを受け取ってゆっくり味わう方もおられました。炭火で焼いた野菜やお肉は香ばしく、普段とは一味違うおいしさが感じられ、「炭で焼くとやっぱり美味しいね」といった声が多く聞かれました。参加者同士の会話も弾み、笑顔溢れる楽しい時間となりました。😊



院外レク(紫陽花)

竹崎Ns

6月16日に、春野の六條八幡宮へ紫陽花見学に行ってきました。あいにくの空模様でしたが紫陽花が雨に濡れいきいきしていたように思います。今年は早くから咲き始めたので少し見ごろを過ぎた株もありましたが、まだまだたくさんのお花が咲き、種類も多く見応えがありました。参加されたメンバーさんからも、「たくさん咲いてきれいだった。」「色々な種類があつてよかった。」「白いあじさいを初めて見た。白もいいね。」「などと言う声が聞かれました。



デイケア交流会

上甲PSW

6月19日障害者スポーツセンターで開催された、デイケア連絡会主催のボッチャ・モルツク交流会に出場しました。当デイケアはボッチャのみ参加しました。よさこいチームとサクラチームの2チームが出場しました。よさこいチームは見事決勝リーグに勝ち進みました。4エンド同点のサドンレスで惜しくも負けましたが、いい緊張感のもとボッチャを楽しむことができました。今回初のモルツク大会も盛り上がり、当デイケアからも次回出場を希望する声も聞かれました。

海辺のワールドカップ 森木ジャパンここに集結!



さあ、みんな集まれ!
君たちは海辺の杜を背負って
世界と戦うんだ!
世界一の精神科病院に
のぼりつめるための、
意気込みを教えてください!

理事
森木 潤一郎

必勝

世界一目指して!まだ入ったばかりの新人です!場の空気に慣れ、若さで前面に押し出して、チームのみんなと鼓舞するプレーをしています!全体を俯瞰して見ることで、チーム全体が崩れないように後ろの方から支えていきたいと思っています!得意ポジションは、サイドバックっす!



作業療法室:作業療法士
徳久 和宏

管理部:施設係
植田 陸人

2病棟:看護師
中尾 恭平

世界一の精神科になるためには、世界一の努力をしないとイケないです。そのために私は成長にこだわりたいと思います。成長できる環境を与えられるのではなく、自分自身で創り出したいと思っています!得意ポジションは右サイドベンチ(お茶出し)、そしてゴールキーパーも出来るっす!

サッカーしていたのは、15歳の時の話になり、60年前のことです。宮崎市で優勝し、県大会に進みました。細かいことは覚えてませんが、かつ丼を食べたことが思い出されました。ははは

医局:名誉院長
清水 博



病棟というピッチで、ユーザーさんの笑顔をゴールに。チーム一丸となってパスを繋ぎ、ユーザーさんへのパス回し(連携)には自信があります。全員で攻めて、全員で守り、世界一の精神科病院へキックオフ!得意ポジションはBRっす!湯けむりエリアの守護神。安全第一で、笑顔溢れるバスタイムを演出します!

3病棟:看護師
大田 和明

世界一の精神科病院になるにはメッシのようなカリスマストライカーが必要っす!海辺のメッシになれるよう...今から頑張ります!!得意ポジションは、MFっす!

医局:言語聴覚士、発達障害ケアセンター長
町原 敦

作業療法室:作業療法士
佐野 秀平

ブラジル戦で大活躍した佐野です。まずは精神科病院における防災対策W杯で世界一を取るために、備蓄飲料水をハイドレーションブレイクに使用し、様々な防災備品を駆使して選手のパフォーマンスを向上させます。森木監督、蓄電バッテリーの管理と発電機の稼働はお任せください。マンマミーア。得意ポジションはトップ下、ボランチっす!

管理部:施設係
山本 慎太郎

ワールドカップ優勝国スペインのように状況判断・切り替えを素早くし、チームワークを大切に世界一を目指しましょう!得意ポジションはサイドハーフっす!

海辺が世界一になるには、システム全体の見直しと、個々の能力・技術の向上の両方が必要だと、2026WCを見て思いました!日本代表は、ケガも大きいですが個人の力がまだまだ足りなかったし、フランス代表は個に頼り過ぎた。その点スペイン代表は、個と組織のバランスが見事で、本当に優勝に値するチームでした。得意ポジションですが、(得意ではないですが)FWが好きです!でも組織的の守備で相手を抑えきるのも好きです!

看護部:看護部長
徳弘 英史

無敵艦隊スペインサッカーのようにチームワークで世界をとりましょう!得意ポジションは、MFとDFっす!

サッカーの経験はありません!しかし、小学校の休み時間に友達とスカイラブハリケーン(危険な技です)で得点した記憶は鮮明に残っています。世界一になるにはチャレンジ精神が最も重要だと思います。得意ポジションは、すみっこでお願いします!

3病棟:看護師
門田 圭太

世界一を目指すために、まずは足元の確認から!プレイヤーが怪我無く安心してプレーできるためには良いグラウンド環境は不可欠!職員にとっても安心して働ける環境がある病院であって欲しい!ワントラップでのパス回しがパスパスきまらぐらいの技術と連携があれば最高!かつ各ポジションが役割を果たしゴールを狙い、ゴールを守るチームワークを大切にしたい!病院も同じく、各職種が専門的な技術を発揮し、さらなるチーム医療の展開を目指したい!最後に...チーム(病院)をまとめる指導者たちの腕前がいかに!得意ポジションは、マネージャーとして、柱の影から選手達のプレー(動き)を見守りつつ、所々で絶妙な口出しをする。が、そんなことも言いつつ、納得いかないことについては突き詰めた性格であるため、自分のスイッチが入ったときには大いに口を出す。スイッチが入りそうな前兆は、それはどうなんだ?という思いから『首をかしげる』ことであるため、山本が首をかしげたら注意。

健康推進室:保健師
山本 千央

やはり世界一になるためにはスタッフ全員がイケイケドンドンになることです。これはサッカー界でも滅多にできる言葉ではありません。医療場面でもスタッフ全員がイケイケドンドンで大量得点、さらに無失点、そして優勝を目指しましょう。得意ポジションはFWっす!しかし、キーパーとの1対1はよく外します。PKは95%外します、蹴りたくないです、蹴らせないでください、PKになりそうなら直前に交代してください、よろしくお祈いします。

マネージャー
相談室:相談室長
山本 友里恵





**海辺の杜
ホスピタル**

〒781-0270 高知市長浜251
TEL 088-841-2288 FAX 088-841-2280
E-MAIL info@umibenomori.com
URL https://www.umibenomori.jp/
■理事長 町田照代 ■院長 岡田和史

診療科目	診療時間	受付時間
●精神科 ●心療内科	月～金 AM9:00～PM12:15 PM1:15～PM 4:45 土 AM9:00～正午	月～金 AM8:30～PM 4:30 土 AM8:30～AM11:45

初診予約専用ダイヤル
TEL 088-841-2409

デイケア

- 精神科デイケア
「わくわく」 TEL 088-841-2081
- 重度認知症デイケア
「ほのか」 TEL 088-841-0372

相談室

TEL 088-841-2016
FAX 088-841-2286



**棧橋みどり
クリニック**

〒780-8015 高知市百石町2-8-8
TEL 088-878-9310 FAX 088-833-3602
E-MAIL info@san-mido-clinic.com
URL http://san-mido-clinic.com/
■理事長 町田照代 ■所長 山崎浩

診療科目	診療時間
●心療内科 ●精神科	月・火・木・金・土 ■隔週 AM9:30～PM12:30 PM2:00～PM 6:00* (※金曜日 PM5:00 土曜日 PM4:00) 水 AM9:30～PM12:30

受付時間

月・火・木・金 AM9:30～PM12:00
PM1:30～PM 5:30
水・土 AM9:30～PM12:00

休診日

日・祝日
水曜午後
隔週土曜

関連施設

訪問看護ステーション
うみべ

〒780-8015
高知市百石町2-8-8
TEL/FAX 088-833-1177



診療実績

2026.5/1～5/31 (のべ)

海辺の杜ホスピタル
・外来総数 2,297人
・うち新患外来総数 37人
・入院総数 26人
・うち新患入院総数 6人
・退院数 25人
・精神科デイ利用者数 424人
・ショートケア利用者数 81人
・重度認知症デイ利用者数 206人

2026.6/1～6/30 (のべ)

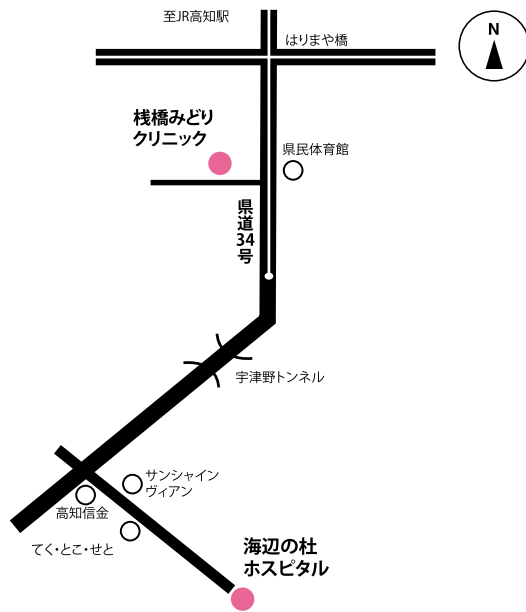
海辺の杜ホスピタル
・外来総数 2,434人
・うち新患外来総数 53人
・入院総数 22人
・うち新患入院総数 8人
・退院数 25人
・精神科デイ利用者数 463人
・ショートケア利用者数 79人
・重度認知症デイ利用者数 242人

棧橋みどりクリニック
・外来総数 537人
・新患外来総数 53人

棧橋みどりクリニック
・外来総数 554人
・新患外来総数 40人

訪問看護ステーションうみべ
・訪問件数 401件

訪問看護ステーションうみべ
・訪問件数 495件



お寄せ下さい

院内誌に関する、ご意見・ご感想、ご要望、投稿記事等、どんな事でも構いません。お気づきの点がありましたら、思いのままに下記までご投稿下さい。

提出先: Myweb Mail → **新規作成** → **アドレス帳**
→ カスタムグループ
→ 院内誌編集係 → **メール作成** まで。



編集後記 (編集長: 橋田)

「御朱印にハマる」という、雅な趣味ができました。先日も友人と神社巡りへ出かけ、1日で4社を参拝。御朱印と美味しい地元グルメを堪能しました。ところが、御朱印帳を手にも目も輝かせる私を見て、友人が「スタンプラリーと思っちゃう」とおちよくる始末。返す言葉もありません。神前で見るべき「大人の品格」はまだ不足している模様。真の風流人への道は、まだまだ先。想像以上に険しく、遠そうです。

今月の表紙

毎年毎年暑いですね!この作品は、当院のデイケアわくわくのユーザー(利用者)の方々がプログラムの時間に制作したものです。デイケアの時間やお家が少しでも涼しければ、夏になれば団扇と扇子に絵をいつも描いてもらってます。もちろんデイケアもクーラーは効いてますが、ちょっとした時なんかにはエコでイいですよね。地球の温暖化は確実に進んでいます。スピード少しでも遅らせる、ほんのほんの小さな小さな対策として皆さんもオリジナル手描き作品に挑戦されたら面白いじゃないでしょうか。※材料は百均にそろってますよ。

